

せき男女共同参画まちづくり

「第3次せき男女共同参画まちづくりプラン」の策定にあたり、市内で活躍している女性をお招きし、座談会を開催しました。それぞれの経験や立場から、「働き方」「家庭の役割分担」「仕事と家庭の優先度」等についてざくばらんに語っていただきました。

● 自分自身の働き方について

森 関市では結婚・出産後、仕事に復帰する女性が増えています。パート・アルバイトが多くなっています。一度育児のために仕事をやめている人が多いと考えています。

先日、求職中の女性向けのセミナーで、参加者が望む働き方を聞いたところ、「子育て優先で短時間のパート・アルバイトをしたい方」と、「資格や特技を生かして働きたい方」に、二分していました。みなさんは、仕事はずっと続けられていますか？



森 小百合さん

関市役所市民協働課課長。既に成人した二児の母。

亀山 わたしはカフェを経営していますが、主に夫に家事・育児を任せて、わたしがメインで働いています。一度夫婦で子育てや家庭のことを話し合っ、「わたしは家計を支えるためにも仕事の手を抜けない」となったとき、夫が喜んで主夫を受け入れてくれました。

育休は、半年くらい自分で決めて取りました。子育ては貴重な経験だから、携わりたいたいなと思って。その間お店はお休みしましたが、長期間休むと戻れなくなる不安があったので、徐々に再開していきました。

仕事は、「お金のため」とは思わないです。昔から、「自分のやりたいことをやるためにどうするか」を考えていました。お給料のために何となく働くのは性に合わないかな。母が美容院をやっているの、女性が働くこと自体には抵抗は全くなかったです。



亀山 久美子さん

関市文化会館の近くにあるCAFÉ Ma biche (カフェマビッシュ) のオーナー。一児の母。

松井 わたしは結婚してからも働き続けられるように、と就職活動をしていて、今の仕事を

選びました。

あとは将来、自分の子どもに好きなことをやらせられるように、共働きをして少しでも経済的な余裕ができればと思います。でも、自分がメインで働くことはあまり考えたことがないですね。女性はどうしても出産で休む時期があるので、そう思うと配偶者には安定した収入があった方が良くもかもしれません。



松井 歩柚美さん

「岐阜県ワーク・ライフ・バランス推進エクセレント企業」である関信用金庫の本店営業部勤務。今年度入庫した新入職員。

山田 わたしの会社では、社員に有休取得を促したり、育休を国の制度より充実させて、長く働けるようにしています。現場で働く7割は女性なので、出産・子育てを考慮して、就学時までは就業時間を本人の希望次第としています。



山田 あつ子さん

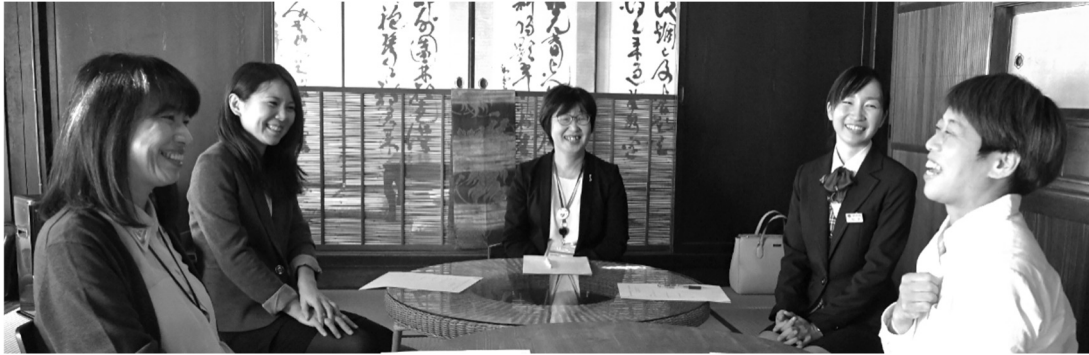
「岐阜県ワーク・ライフ・バランス推進エクセレント企業」である特別養護老人ホームハートフルの施設長。

森 わたしは育児休業制度ができたころに出産しましたが、産前産後休業のみ利用しました。保育園に預けるときは子どもに泣かれて、複雑な気持ちもありながら育ててきましたね。

でも、わたし自身は「働く」という意思が強かったので、子どもには「習い事等の送り迎えはできない」と伝えていました。子どもは不満に思うこともあったかもしれませんが、「お母さんはこう生きる」ことをきちんと納得してもらえたので、子どもも母親をあてにしないようになりました。

職場でも、しっかり意思表示して、周りを巻きこんで、子育て期間中は特に協力してもらうことも大切だと考えています。困っていることがあるなら、上司にも伝えたほうが良いと思いますね。

プラン 女性座談会を開催！！



● 家庭の役割分担について

山田 仕事でも家庭でも、互いを生かし合うことができれば、補い合えると思います。母親が子どもの都合に合わせていると、子どもも、自分の子育てのときにそうなるのかなと思います。夫婦や祖父母の在り方によって、子どもの家族観や働き方、生き方の考えが形成されるのではないのでしょうか。

亀山 うちの場合、子どもにとってわたしは、「目標のために仕事をがんばる人」と認識されているので、夫と役割分担ができていれば良いと思います。

山田 役割分担を上手に行って、夫婦の仲が良いのが一番大切ですよ。

亀山 子どもにとっても、夫婦仲が良く、家庭で安心できることが大切だと思います。だから、夫には言いたいことは伝えて、次の日はリセットするようにしています。

● 仕事と家庭の優先度や、生き方について

飯田 保育園に入れるために「とりあえず」で仕事を探す人も多いですね。



飯田 梨恵さん
関市役所子ども家庭課所属。一児の母。
子どもが2歳なので短時間勤務中。

森 ただ、それだと自分の能力を生かせずにもったいないと感じます。とりあえずの仕事だと、子どもが成長して「もう少し働きたい」と思っても、企業も柔軟な対応がなかなか難しい。

山田 子どもを預けないといけな、と思うきっかけは何なのでしょう？

森 4歳になる年になったら、保育園に入れるのが当たり前のようになっているからだと思います。

山田 自由なお金のために、ある程度自分で稼ぎたい思いもあるでしょうね。

森 亀山さんは起業されていますが、周りで起業したい女性はいらっしゃるでしょうか？

亀山 カフェでやっているワークショップの参加者から起業等の相談もありますし、実際に動いている人もいます。でも一方で、子どもの都合に合わせて働いている人もいます。「子育て優先でないとね」と言っていますが、満足感は高くない感じも見受けられます。やりたいことと、やらなければいけないことの間で揺れているのかなと思います。

山田 やりたいことがたくさんあると、それをどう組み合わせるかが難しいですよ。

森 体力も能力もやる気もある時期が、一番忙しい。一方で、子どもの手が離れてくると、体力がなくなってきたり。タイミングがなかなか合わないですよ。

子どもの学校の送り迎えに合わせて、仕事を変える人もいます。そういった話を多く聞くと、女性が自由に自分の時間をもって働くことは難しいなと感じます。

山田 目標があって働き続ける人は、育児休業等を取って働き続けるし、よほどの事情がない限り転職することも少ないと思います。一方で、家族を優先するなら子どもに合わせて仕事を変えることになるのかな。どちらかが良いわけではなくて、女性自身がどう生きるかで、選択が変わってくるのだと思います。

森 「どう生きるか」のキャリアデザインがないと難しいですよ。